

## コスモビューティーは、神戸市ポートアイランドにあるチャイルドケモハウスの活動に賛同し、神戸市企業版ふるさと納税を通じて寄付をしました。

今回はチャイルドケモハウス(愛称チャイケモハウス)の運営団体チャイルドケモサポート基金の代表の堀内正美氏をお迎えし山添社長、西川会長、阿尾相談役とでお話しを伺いました。

堀内さんは阪神・淡路大震災の直後に『がんばろう!!神戸』を立ち上げられ、また2年前からはチャイルドケアサポート基金の代表をされていますが、どういう思いで活動されているのでしょうか。

堀内氏：阪神・淡路大震災の時、私は神戸にいて、家族を亡くした多くの方を目の当たりにしました。家族や大切な人を失った悲しみというのは、誰かが癒せるようなものではなく、ただ寄り添うしかないのです。でも心も街も復興していかなければならない。がんばれば、がんばろう!!神戸。みんなで頑張っていこうという思いで発信しました。もちろん今もその活動は続いていて、今回コスモビューティー様にはふるさと納税を通じて認定特定非営利活動法人阪神淡路大震災「1.17希望の灯り」にも寄付いただきました。ありがとうございます。そして「がんばろう!!神戸」の活動を通じて、震災だけでなく、災害はもちろん、事件、事故、病気で家族をなくされた方がたくさんいらっしゃる(年間130万人以上が亡くなっている)ことを知り、その方々への寄り添いから、小児がんや難病のご家族と出会い、チャイルドケモサポート基金の代表を引き受けました。チャイケモハウスは小児

んや難病治療でポートアイランドにある病院に来ている子どもたちと家族のための宿泊滞在施設です。入院治療は、数か月から1年に及びます。その間、家族がバラバラの生活になり、きょうだいさん達とおじいちゃん、おばあちゃんともなかなか会うことができません。親御さんは治療中の子どものこと、家に残してきているきょうだい家族のことなど二重生活になり精神的な不安と遠方からの交通費や生活費など経済的にも大きな負担を抱えています。子どもたちの入院中の家族の滞在先も課題でした。ある親御さんは子どもの入院治療中は車で寝泊まりして、食事もカップラーメンやコンビニのおにぎりですとおっしゃっていました。これでは家族も倒れてしまう。チャイケモハウスはそういったことを解決とはいきませんがサポートできる施設を目指しています。治療中、特に抗がん剤治療の子どもたちの感染症予防を第一に考え運営しています。



チャイケモハウスは小児がんや難病の子どもたちと家族に寄り添い、家族一緒に時間を過ごせるように、自宅できつろいでいるような環境づくりを目指しています。



チャイケモハウスは家族で滞在していただけるファミリータイプのお部屋を19部屋用意しています。どの部屋も1日の滞在費用は1000円。簡易ベッドではなくゆったりと休めるベッド、各部屋にキッチン、お風呂、トイレ、洗濯機なども完備しています。もちろん食卓テーブルもあり、自宅と同じようにテーブルで食事ができます。公園のようなプレイルームが施設の真ん中にあり子どもたちが走って遊べるようになっています。看護師・保健師・自立支援相談員・経験者といった支援スタッフがいます。チャイケモハウスはすべて寄付だけで運営しています。

堀内氏：私は西川会長と知り合って古いのですが、最初に西川会長がおっしゃっていたことがとても印象に残っています。それが「床」のお話です。「会社を大きくするのは経営者ではなく、製品を買ってくれるお客様、製品を作るために原料を提供して下さる会社様、製品開発する研究員、製造、充填、品質管理、営業など多くの従業員が、コスモビューティーという床の上で頑張ってくれる。僕たち経営者は従業員が安心して働ける床をつくる管理人なんです」

す」まったくその通りだと納得しました。ピラミッド型のヒエラルキーではなく責任者や経営者は床であるべきだと。私もチャイケモハウスのスタッフが安心して仕事ができる「床」づくりをしています。西川会長から「組織を継続させるには床が磐石でなければダメ。うちの会社も応援するから、病気の子どもたちとご家族が安心して滞在できるハウス作りを堀内さんも頑張ってください!」とおっしゃっていただき、支援もいただき感謝しています。

阿尾相談役：企業は社会的な役割を果たす義務があります。おかげさまでコスモビューティーは、仕入れ先様はじめいろいろな取引先様、そして従業員のがんばりでここまでの会社に成長しました。利益を出すのはもちろんですが、ただ利益を追求するのではなく社会的な役割、つまり社会貢献しなければ、これから先、さらなる飛躍はないと思っています。今後も堀内さんの活動をはじめ、いろいろな団体の活動にも積極的に支援を続けていきたいと思っています。

山添社長：未来を担う子どもたちの支援にさらに協力していきたいと思っています。実際に子ども食堂の運営や、地域の子どもの食堂への支援なども始めており、持続的な社会の実現に向けて、今後もいろいろな形の支援に取り組んでいきたいですね。

西川会長：私はそんなに大それたことは考えていません。ただただ子どもたちのために何かしたい...そんな思いで、私たちができることをやっているんです。病気の子ども、その家族、忙しい親御さんやその子ども、家に食事のない子ども、孤食の子ども...みんないろいろな事情を抱えています。私たちの会社ができることはほんの小さな

きっかけに過ぎませんが、少しでも誰かの助けになるのなら幸いだと思います。堀内さんの活動にも共感しています。大変な役割でご苦労もあると思いますが、すばらしいことです。私たちの会社が堀内さんの床づくりの一端を担えればと思っています。



左から西川会長、堀内さん、阿尾相談役、山添社長

堀内正美氏  
兵庫県神戸市在住。  
俳優、公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金の代表。  
過去には認定特定非営利活動法人阪神淡路大震災「1.17希望の灯り」設立、東日本大震災の「たすきプロジェクト」設立。  
現在公開中の映画「シンウルトラマン」では官房長官役で出演中。

チャイルド・ケモ・ハウス (愛称: チャイケモ)  
child chemo house  
<http://www.kemohouse.jp/>



## メディコス製薬が大阪府スマートシニアライフ事業に寄付し、大阪府知事より感謝状が贈呈されました。

2022年6月23日に大阪府庁に於いて、大阪府スマートシニアライフ基金知事感謝状贈呈式が執り行われ、メディコス製薬株式会社の阿尾会長、西川社長が出席し、吉村知事から感謝状をいただきました。大阪府スマートシニアライフ事業は、高齢者がいきいきと健康で便利に生活できるよう、高齢者の生活を支援するサービスプラットフォームを公民共同で構築し、タブレット等のデジタル端末を活用することにより、行政と民間の様々なサービスをワンストップで提供する事業です。(寄附金額:1500万円)



左から西川社長、吉村知事、阿尾会長

大阪府HP: [https://www.pref.osaka.lg.jp/chiiki\\_senryaku/smart\\_senior\\_life/index.html](https://www.pref.osaka.lg.jp/chiiki_senryaku/smart_senior_life/index.html)



## 神戸市に寄付しました

- 企業版ふるさと納税を通じて神戸市に寄付をしました。
- 神戸医療産業都市推進事業 (600万)
  - 神戸医療産業都市公益事業推進寄附金事業 (公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金) (300万)
  - 認定特定非営利活動法人 阪神淡路大震災「1.17希望の灯り」 (100万)

## 子ども食堂への寄付

NPO法人西成チャイルド・ケア・センターが運営している、にしなり子ども食堂へ食材寄付へ行ってきました。代表理事の川辺さんが10年前に子どもたちの居場所づくりとして立ち上げられました。一人ぼっちの子どもや孤立した家庭のない地域を作る事を目的に子ども食堂だけでなく様々な活動をされています。当社も支援しています。



左から西川会長、川辺さん、関西陸送さん

## チャイケモハウス訪問・寄付

2022年6月27日(月)、神戸市中央区ポートアイランドにあるNPO法人チャイルド・ケモ・ハウスへご訪問させていただきました。代表理事の堀内正美さんに館内案内と活動内容の説明をしていただき、病気の子どもたちと、そのご家族のためのサポート活動を一人でも多くの方に知っていただきたいと思いました。



左から関西陸送さん、原田さん、堀内さん

## 子ども食堂の運営

芦屋市にあるコスモビューティーの福利厚生施設で4月から始まった子ども食堂も6回が終わり、チラシの反響・口コミでお弁当を取りに来られる方が少しずつ増えてきました。ボランティアの方々も手際よく手伝ってくださりとても助かっています。子どもたちの支援を目的としてこれからも継続して活動をしていきます。

